

2018 年度名古屋外国語大学授業評価アンケート結果総括

FD 委員会作業チーム委員長
高 梨 芳 郎

2018 年度の授業評価アンケート調査は、名古屋外国語大学 FD 委員会のもとで、原則として学部、大学院、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）の全授業科目を対象にして実施された。実施期間は、学部は 2018 年 12 月 18 日（火）～2019 年 1 月 21 日（月）、大学院は 2018 年 12 月 10 日（月）～2018 年 12 月 21 日（金）で、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）は 2018 年 12 月 10 日（月）～2018 年 12 月 20 日（木）であった。アンケート調査結果は集計され、各教員に結果が知らされ、評価結果について授業者からのアンケートを記述式で提出していただいた。本報告では、今後の授業改善に資する目的で、受講生による授業評価アンケート結果に、授業者からの回答結果も加えて、授業評価結果を総括するものである。なお、授業評価アンケートの項目内容については、「授業科目別評価結果」を参照いただきたい。

1. 学生への授業改善アンケート調査結果

（1）回答結果の概要

本授業評価アンケートは、受講者総数 30,759 名（学部 30,133 名、大学院 46 名、国際日本語教育インスティテュート 580 名）を対象に実施し、回答総数は 26,866 件（学部 26,306 件、大学院 45 件、国際日本語教育インスティテュート 515 件）で、回収率（回答総数÷受講者総数）は 87%（学部 87%、大学院 98%、国際日本語教育インスティテュート 89%）であった。なお、2017 年度の全授業についての回収率は 88%（学部 88%、大学院 99%、日本語教育センター 84%）であった。

（2）個々の項目ごとの分析結果

①授業満足度について

授業の満足度については、全授業で項目平均値は 4.3（5 点法）（学部 4.3、大学院 4.9、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.3）であった。参考までに、2017 年度での全授業での項目平均値は 4.3（5 点法）（学部 4.3、大学院 5.0、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.1）であった。

学部については、外国語学部の学科ごとに見ても、英米語学科 4.3、フランス語学科 4.4、中国語学科 4.2、日本語学科 4.3、英語教育学科 4.6、世界教養学科 4.3 で、4 以上の高い満足度の数値であった。現代国際学部についても同様に、学科ごとに見ても、現代英語学科 4.4、グローバルビジネス学科 4.4、国際教養学科 4.3 で高い満足度を示す数値であった。世界共生学部世界共生学科も 4.2 で高い満足度であった。また、科目系列等で見ても、ほぼ総て 4.0 以上の平均値で高い満足度であった。

一方、大学院については、全回答者数の約 90%（45 名中 40 名）が 5.0 の回答をして、項目平均値は 4.9 の数値で、極めて高い満足度が示された。また、国際日本語教育インスティ

テュート (留学生別科)については、受講者数 580 名に対して回答数が 515 件で満足度の項目平均値は 4.3 で、「とてもそう思う」(5)と「ややそう思う」(4)はそれぞれ、約 50%、30%の割合であった。

②出席・受講態度・シラバスの活用について

これらの 3 項目は受講者が自分の出席状況・受講態度、シラバスの活用(登録前・履修中)について評価した結果である。これらの項目についての評価結果は、全授業の項目平均値はそれぞれ順に、4.3、4.3、3.4 (いずれも 5 点法) (学部 4.3、4.3、3.4、大学院 4.1、4.6、3.6、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.2、4.5、4.3) であった。参考までに、2017 年度での全授業で項目平均値はそれぞれ、4.3、4.3、3.3 (いずれも 5 点法) (学部 4.3、4.3、3.3、大学院 4.6、4.8、4.6、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.2、4.4、4.0) で、おおむね同様の傾向がみられた。また、シラバスの活用は、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)を除けば、2018 年度においても、出席や受講態度と比べれば低い回答傾向が見られた。

学部については、外国語学部では、学科ごとに見ると、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.1～4.5、4.3～4.6 の範囲)で、シラバス活用は 3 台(それぞれ 3.2～3.6)であった。現代国際学部の各学科についても、外国語学部と同様で、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.3～4.4、4.4～4.5 の範囲)で、シラバス活用は 3 台(それぞれ、3.5～3.6 の範囲)であった。世界共生学部においても同様で、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.5、4.4)で、シラバス活用は 3 台(3.2)であった。一方、科目系列等で見ても同様で、出席、受講態度は総て 4 台で、シラバス活用はほぼ総て 3 台であった。

大学院については、それぞれ、4.1、4.6、3.6 の平均値で、シラバス活用については 3 台の評価であった。国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)についても、同様にそれぞれ、4.2、4.5、4.3 の平均値で、出席、受講態度、シラバス活用とも 4 台の平均値であった。

③授業進度、説明のわかり易さ、授業時間(開始・終了)、熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮、授業レベルの適切性、授業への興味について

これらの 8 項目の評価結果については、項目平均値は全授業で 4.2～4.6 の範囲(学部 4.2～4.6、大学院 4.6～5.0、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.2～4.8)であった。これらの中で平均値が最も高いのは、共通して、教員の熱意(4.6～5.0)と授業時間(開始・終了)(4.5～4.9)などで、最も低いのは、大学院を別にすれば、授業レベルの適切性(4.2)と授業への興味(4.2～4.3)であった。参考までに、2017 年度のこれらの項目平均値は、全授業で 4.2～4.5 の範囲(学部 4.2～4.5、大学院 4.8～5.0、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.1～4.5)であった。

学部についても、同様に、外国語学部の学科ごとに見ると、総て 4 台(各項目平均値の範囲は省略)であった。また、現代国際学部の学科については、3 学科とも総ての項目で 4 台であった。世界共生学部も同様であった。科目系列等で見ても、4.0 以上の平均値の科目群がほとんどで、ほぼ高い評価結果であった。

大学院については、それぞれ、4.6～5.0 の平均値で、8 項目すべてについて極めて高い評価結果となっている。国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)についても、4.2～4.8 の平均値で、同様に、8 項目すべてについて高い評価結果となっている。

2. 学生の授業改善アンケート調査結果に対する教員アンケート結果

受講生による授業評価結果について多くの方から記述式の回答をいただいた。ここでは、典型的な回答と判断できる記述内容についてごく一部を紹介する。

(1) 受講生からのアンケート結果の受け止め方

- ・授業内容・方法の有効性、改善点を見直す有効な資料となる。
- ・記述式質問に対する回答結果から授業の長所・課題など具体的に知ることができた。
- ・アンケートの結果を真摯に受け止め、授業改善に努めていきたい。

(2) 授業で解決すべき課題

- ・大人数でのアクティブラーニングをどのように実行していくかが課題である。
- ・学習内容に応じて紹介してきた参考書の活用状況・理解度について授業中に確認をすることが必要である。
- ・授業で積極的に発言したい学生も多いので、意見を発表する機会を更に増やしたい。
- ・授業では学習意欲の喚起が最大の課題である。

(3) 授業での工夫

- ・初回の授業で学習予定、課題とその提出期限を一覧表にして配布し、周知している。
- ・学生にレポートを早めに提出させ、提出したレポートを補足しながら受講生に紹介して関心を高めるようにしている。
- ・基礎知識を習得させた後、グループ作業やプレゼンを実施して学修を充実させている。また、学生間で評価し合うための評価用紙等も作成・配布して活用している。
- ・リーディングの課題を基に学生のグループディスカッション（英語で 20 分間）を毎週実施している。
- ・アクティブラーニングの実施を心がけ、なるべくペアワークでの議論や発言の機会を多く設け、積極性を奨励するため、不正解の回答にも否定的な反応をしないこと、挙手しやすい環境作りをすることなどの配慮をしている。
- ・学生が自律的に楽しく学べるように、効果的な学習方法や覚え方の工夫（日本のアニメの主題歌を使った教師自作の替え歌等）を紹介するとともに、学生同士の学び合いを促す授業設計を行っている。

(4) FD への意見

- ・授業内容・形式（講義・演習、クラスサイズなど）に関連させたアンケート調査項目の作成を期待したい。
- ・効果的な話し方を身につけるための講座があるとよい。
- ・授業力の向上につながる具体的な内容の FD 講演会の実施を望む。

3. まとめ

学生による授業評価アンケート結果から、本学の授業評価は、大学全体、学部・大学院・国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）のそれぞれの全授業、学部の各学科・科目系列の全授業で、平均値に相違が見られる場合もあるが、いずれも良好な結果であると総括できる。受講生によるアンケート結果に対する先生方の真摯な回答結果に示されているように今後も授業改善の取り組みを積極的に進めていきたいものである。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	吉本美佳
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する調査結果は6つに分類されている。分類の内訳と各回答数及び回答率は以下のとおりである。

- 1) 英米語学科における以下2)～6)の授業評価結果の総計（回答数 5020 名、回答率 85%）
- 2) 専門ゼミナール（回答数 388 名、回答率 85%）
- 3) 専攻言語プログラム／専攻語学（PUT を除く）（回答数 2599 名、回答率 85%）
- 4) コース科目・学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕／〔応用〕
（回答数 1072 名、回答率 87%）
- 5) 学部共通英語基幹プログラム（PUT を除く）（回答数 698 名、回答率 86%）
- 6) PUT（回答数 263 名、回答率 82%）

上記分類から、特に英米語学科科目である2)と3)、および学科科目であるコース科目を含む4)を対象として項目ごとの分析をする。

2. 項目ごとの分析結果

◎ 専門ゼミナール

例年同様に全体的に高評価を得ている。ほとんどの項目において全体平均よりも0.2点以上高い評価を得る中で、特に着目すべき点は、授業に対する学生の満足度を表す「A-①この授業は全体として満足だった。」と「D-②この授業に大変興味を持てた。」の項目への評価である。いずれも平均で4.6点という高い評価を得ているだけでなく、6割以上の回答者が最高評価の5を選択している。このことから、ゼミナールに対する学生の満足度が明白である。

一方で、唯一全体平均値よりも低い評価となったのが、「B-①この授業には休まず出席していた。」の項目であり、平均が4.0点となっている。この評価は、ゼミナールが4年生での必修科目となっているため、1期の就職活動による欠席が影響していると推測できる。

◎ 専攻言語プログラム

全体的にほとんどの項目において、大学全体の平均値を上回る結果となっている。シラバスの活用についての項目以外はすべて4.1点以上の平均値を得ている。「B-④この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。」の項目では、全体平均値の3.8点よりも0.3点高い4.1点という評価を得ている。この結果は、専攻言語習得のために授業外での学習を必須とするプログラムの主旨に沿った結果であると解釈できる。

教員の熱意を問う項目、および授業参加への配慮を問う項目に対する回答では、それぞれ4.6点、4.4点と高評価を得ている。この評価から、教員の授業に対する熱心さと語学学習に必要な積極的授業参加の配慮について学生の満足度が見られる。4年生を除き必修科目である点、および学科の全体

数を考慮すると、毎年この平均値を維持しているのは、英米語学科における語学プログラムの成果および、教員の努力が大きく影響していると考えられる。

◎ コース科目／学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕／〔応用〕

全体的には、ほとんどの項目において 4.2 点以上の評価を得ていることから、受講生が概ね好意的な評価をしていることがわかる。ふたつの項目、「B-④この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。」と「B-⑤この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」の評価がそれぞれ 3.7 点、3.9 点と 4 点を下回っている。専門ゼミナール（B-④3.9 点、B-⑤4.3 点）や専攻言語プログラム（B-④4.1 点、B-⑤4.2 点）との比較からも、このカテゴリーの科目に関して、授業外での積極的な学習をしている意識の低さがわかる。さらに「C-⑥学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。」の回答が平均で 4.2 点と高い評価ながらも、全体平均値よりも 0.2 点低いことは改善の余地が見られる。

3. 今後の授業改善に向けて

以上の分析から、コース科目/学科提供科目に関して、より積極的な授業外学習と授業参加に向けて、学生の参加態度と講師の授業運営の双方から授業改善への取り組みを検討したい。学生に対しては、受講者数が多い講義式の授業科目に向けての取り組み方の示唆が必要である。受動的な態度で講義に出席するのではなく、授業内容を聴き取り、理解し、重要な部分を書き取り、授業外で復習し、さらには授業内容を発展させ各自で学習するという基本的な学習態度の重要性を促したい。授業の初回オリエンテーションや学科ガイダンスなどの機会を用いて学生へ周知し、認識を高める試みを検討したい。同時に、講師が上記の態度を促す授業運営を心がけることも不可欠である。講師間の情報共有ができる環境作りや、FD 講演会の充実により、講師側の授業内容や運営の改善を支援して行きたい。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井 由紀
------	---------	-----	-------

1. 調査結果の概要

2018年度におけるアンケート調査結果は、「15カリ」が4年次まで達した時点における、最初の授業評価アンケートである。

フランス語学科の回答を前年度の回答と比べた場合、全体としては「全体平均」を上回るだけでなく、前年度に比しても評価が上がっている項目が多くを占めており、本学科生の回答から得られた授業評価は、総じて良好なものであり、本学科生が学科提供科目に対して、少なからず積極的な評価をしていると判断できそうである。

なお、系列ごとに見た場合、全学共通として設けられている「世界教養プログラム」については、昨年度と比べると平均の数値はやや高くなったものの、「全体平均」を下回る結果だった。ただし、昨年度同様、「世界教養プログラム」のカテゴリーには「コース科目」も含まれた形で評価結果が出ているため、結果を正しく読み取ることは難しい。また、同様に全学科目である「英語共通基幹」については、昨年度とそれ程変化はないものの「全体平均」に比べると平均値は上回っていた。

2. 項目ごとの分析結果

昨年度の学科評価平均と今年度の学科評価平均を比べて、以下、「満足度」、「分かりやすさ」、「教員の熱意」、「授業参加への配慮」、「レベルの適切さ」、「興味が持てたかどうか」について分析していく。

専攻言語については、「分かりやすさ」「教員の熱意」「授業参加への配慮」の3項目において前年度よりいずれも0.1ポイントずつ上回ったが、「レベルの適切さ」と「興味が持てたかどうか」の2項目においては同じく0.1ポイントずつ下回った。しかしながら、「レベルの適切さ」を詳しく見

ると、適切でないと判断した理由の 76%が「高すぎる・少し高い」と回答しており、教育的な観点から捉えれば、むしろやや高いレベルだと感じるくらいが学習意欲を高めるとも考えられることから、決して消極的な評価ではないと考えられる。

PUT についてはフランス語と英語の両言語を対象に設問しているため、仏英二言語についての評価という前提ではあるものの、上で挙げたいずれの項目においても 0.1 から 0.2 ポイント以内の上昇であった。

専門ゼミにおいては、「満足度」、「レベルの適切さ」、「興味が持てたかどうか」の 3 項目については前年度と同等以上の評価が得られた。一方で、「分かりやすさ」、「教員の熱意」、「授業参加への配慮」の 3 項目においては、いずれも 0.1 ポイントずつ下回る結果であった。

3. 今後の授業改善に向けて

2018 年度の結果を総合的に評価すると、前年度同様、科目群によって評価に差が生じたと見て取れる。とりわけ「世界教養プログラム」と「コース科目」のカテゴリーは全体平均よりも芳しくない学科平均となっているが、世界教養プログラム部会の会議において「世界教養プログラム」の授業評価結果が他の科目群と比べて低い評価であったと報告されたことを踏まえれば、その影響が当該科目群の評価に多少なりとも結果に影響を及ぼしていると推察することも不可能ではなさそうだ。

しかしながら、15 カリに配置された「コース科目」の内容を振り返るための、学科内議論を行うことは教育改善に役立つと思われる。学科科目として重要な役割を果たしている専攻言語やゼミについては大きな変動もなく、全体平均よりは総じて上回る評価結果ではあるものの、これに満足することなく、さらなる授業改善に向けて学科一丸となって、継続的な努力を重ねていきたい。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	中国語学科	担当者	船越達志
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

今年度は、学科全体で見ると、1年次（18生）回答数178、2年次（17生）回答数403、3年次（16生）回答数59、4年次（15生以上）以上回答数40、不明196となっている。例年のことではあるが、1，2年生（特に2年生）に偏っている。中国語学科は定員が少なく、また、3年次に留学する学生が多いためである。結果は概ね4点台であり、満足度は高いと言えよう。

2. 項目ごとの分析結果

主な質問項目について、授業科目群別の調査結果を以下に示す（括弧内の数字は昨年2017年度の数字）：

	A①満足度	C②分かり易さ	C④熱意	C⑥授業参加	D①レベル	D②興味
専攻言語・専攻語学	4.4(4.2)	4.5(4.2)	4.6(4.5)	4.5(4.2)	4.2(4.0)	4.3(4.0)
PUT（中国語PUT）	4.4(4.5)	4.5(4.6)	4.5(4.6)	4.5(4.6)	4.2(4.2)	4.5(4.5)
コース科目（世界教養プログラム基盤含む）	4.1(4.0)	4.2(4.1)	4.4(4.4)	4.0(3.9)	4.1(4.0)	4.2(3.9)
ゼミ	4.3(3.9)	4.4(4.1)	4.5(4.5)	4.3(4.4)	4.3(3.9)	4.2(3.7)
1年英語	4.3(4.0)	4.3(4.3)	4.6(4.5)	4.5(4.4)	4.0(3.9)	4.1(4.0)
2年英語	4.0(3.9)	4.0(4.1)	4.2(4.3)	4.2(4.2)	4.0(3.9)	3.8(3.8)
全体平均	4.2(4.1)	4.3(4.3)	4.5(4.4)	4.3(4.4)	4.1(4.0)	4.2(4.0)

以下、上の表に基づき、分析をしていきたい。

まず、「専攻言語プログラム（専攻語学）」であるが、回答数は1年（18生）73、2年（17生）199、3年以上（16生以上）13となっている。「概要」でも述べたが、1，2年生に偏ってしまった。とりわけ、2年生の回答が多い。3年次は留学する学生が多く、4年次は就職活動で忙しいためである。よって、これらの数字は1，2年次の授業

に対する結果として認識すべきであろう。上表に掲げたすべての項目で、昨年度よりポイントが上昇した。また、全学平均をも上回っている。授業担当者としての実感でも、昨年度の1, 2年生は例年に比して真面目な学生が多く、大変順調に授業運営ができた。教員側のこういった感触のみならず、学生の授業満足度(A①)も4.4に上昇し(昨年より0.2上昇)、「教員はわかりやすく説明していた」(C②)も4.5に上昇した(昨年より0.3上昇)。学生が感じる「教員の熱意」(C④)も4.6と高い数字が出た(昨年より0.1上昇)。学生のやる気と教員の熱意がうまくかみ合ったと言えよう。「レベル」(D①)に関しても、昨年より0.2上昇した。近年、一部の授業(1年生)に「ネイティブなみの学生用の特別クラス」を設けているが、その成果が反映しているとも考えられる。その他、「授業参加」(C③)や「興味」(D②)が、いずれも昨年より0.3上昇しており、嬉しい結果である。なお3, 4年生の数字があまり反映していないので、3, 4年生の授業ではどのような結果になるのか気になる点である。

次に「PUT」であるが、回答数を見ると、2年PUTが中心となっている。昨年と比べると、「満足度(A①)」、「分かり易さ(C②)」、「熱意(C④)」、「授業参加(C⑥)」いずれも0.1程下降したが、それでも4.5という高い数字が出ている。中国語PUTに関しては、依然高い評価が出ていると考えてよいだろう。「レベル(D①)」に関しては4.2と低めであるが、これは入学時に大半の学生が未履修であるのに対して、一部、既修者やネイティブなみの学生がいるためであろう。PUTのような場ではとりわけ学生間のレベルの差を実感するのもかもしれない。

次に「コース科目/世界教養プログラム」であるが、回答数を見ると、1年(18生)0、2年(17生)49、3年以上(16生以上)19となっている。「世界教養プログラム」の回答と混在しているため、「中国語学科コース科目」に対する正確な反応が把握できないのが残念である。今後、学科の「コース科目」と「世界教養プログラム科目」を分けて集計していただければありがたい。結果は、ほぼ例年並みであるが、昨年よりやや上昇している。上表に掲げた項目はいずれも4点台なのでまずは良好な結果と言える。ただし、全学平均と比べると、「満足度(A①)」、「分かり易さ(C②)」、「熱意(C④)」いずれも0.2低い。また「授業参加(C⑥)」は4.0であるが、全学平均の4.4に比べると0.4低い。語学の授業は学生の授業参加が主体となるのに対し、「コース科目/世界教養プログラム」は講義が中心となるためであろう。また、外大の学生であるため、語学に興味が集中し、講義科目にあまり興味を抱かない傾向があるのかもしれない。

「ゼミ」は、多くの項目で昨年よりかなり上昇した。「満足度(A①)」は0.4上昇、「分かり易さ(C②)」は0.3上昇、「レベル(C⑥)」は0.4上昇、「興味(D②)」は0.5上昇した。昨年度のゼミアンケートについては、母体となる回答数事態が少なく(合計でも13名のみの回答)信頼できる数値ではなかったとも言える。それにしても、数値が上昇したのは嬉しい事である。全学平均ともほぼ同じである。

「英語」科目に関しては、「1年生」と「2年生」で数字に開きがある。「満足度(A

①)」は1年生 4.3 に対して2年生 4.0、「分かり易さ (C②)」は1年生 4.3 に対して2年生 4.0、「熱意 (C④)」は1年生 4.6 に対して2年生 4.2、「授業参加 (C⑥)」は1年生 4.5 に対して2年生 4.2、「興味 (D②)」は1年生 4.1 に対して2年生 3.8 で、いずれも一年生に比して二年生は 0.3～0.4 低い。昨年の一年次の結果と今年の二年次を比べても(対象は同じ学生)、「満足度 (A①)」はともに 4.0 で変化ないが、「分かり易さ (C②)」「熱意 (C④)」ともに 0.3 下降、「興味 (D②)」も 0.2 下降した。英語科目は中国語学科管轄ではないので理由等の分析はできないが、念のため書き記しておく。なお英語については、今後学科ではなく管轄の部署で分析していただければ幸いである。

3. 今後の授業改善に向けて

概ね4点台ではあるが、「専攻言語プログラム(専攻語学)」や「PUT」満足度が 4.5 前後であるのに比して、「コース科目/世界教養プログラム」が 4.1 或いは 4.2 前後で、やや低めである。外国語大学の学生にとっては、語学学習に興味の中心があり、講義科目にやや消極的なものかもしれない。今後の授業改善に向けて一つの課題であろう。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	外国語学部日本語学科	担当者	中北美千子（宮本真有）
------	------------	-----	-------------

1. 調査結果の概要

アンケートは2018年12月18日（火）～2019年1月21日（月）の間に、外国語学部を対象に実施された。日本学科生全体の受講者数は1,403名、うち1,261名が回答し、回答率は90%であった。

2. 項目ごとの分析結果

本アンケートの主な質問項目を、①日本語学科生の授業への満足度、評価等と、②学習態度に関する評価等に分けて以下に分析する。

① 日本語学科生の授業の満足度、評価の平均

日本語学科全体としては、外国語学部全体の平均と概ね大差ない結果となった（表1参照）。外国語学部全体の平均と比較し、数値が高かったものをグレーのハイライト、低かったものを下線で示してある。

科目群ごとに分けて分析したところ、「専門ゼミナール」と「APUT」においては、表1に取り上げた6つの質問項目全てにおいて、学部全体の平均を上回っていることがわかった。教員の熱意や説明の分かりやすさ、学生の積極的な授業参加への配慮などが、学生の満足度やテーマに対する興味の度合いの高さなどに繋がったのではないかと推測される。また、「専攻言語プログラム」や「コース科目」においては学部全体の平均とほぼ同じ結果となった。この2の科目群と先に挙げた2つの科目群の結果を考え合わせると、少人数で専門性の高い授業の方が、より高い授業評価につながっていることがうかがえる。

一方、科目群「PUT以外の学部共通英語基幹プログラム」と「複言語プログラム複専攻語学」においては、学部全体の平均をやや下回った。「複言語プログラム複専攻語学」は、下回ったといっても0.1程度であるため、学部平均とさほど差はないと思われる。しかし、「PUT以外の学部共通英語基幹プログラム」においては、学部平均に比べ0.3-0.6程度下回っている。この数値のみでは、詳しい要因については判断しかねるが、この科目群の中で一番低いアンケート項目（数値3.5）が「D①授業のレベルは自分にとって適切であった」というものであることから、1年生がこれらの英語科目を受けた際に、今までの高校での英語の授業と比較して授業のレベルが高いと感じていることがうかがえる。しかし、2年生以上を対象としたAPUTなどの英語科目の評価が高いことから、1年次には多少難しいと感じる授業であっても、それが学習意欲の向上に繋がっているとも考えられる。より詳しい情報を得るためには、同じ学生が2年生になった時の英語科目の評価を追跡調査するなど、更なる調査が必要である。

表 1 日本語学科生の授業評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	A①授業は全体として満足であった	C②教員の説明は分かり易かった	C④授業には熱意が感じられた	C⑥学生が積極的に授業参加できるよう配慮されていた	D①授業のレベルは自分にとって適切であった	D②この授業に大変興味を持てた
学部全体平均	4.3	4.3	4.6	4.4	4.1	4.2
専門ゼミナール	4.6	4.6	4.7	4.6	4.5	4.6
コース科目	4.3	4.3	4.7	4.4	4.0	4.2
専攻語学プログラム	4.3	4.3	4.6	4.4	4.1	4.2
APUT	4.5	4.4	4.7	4.7	4.2	4.5
PUT 以外の学部共通英語基幹プログラム[1 年生]	3.8	3.7	4.3	4.0	3.5	3.7
複言語プログラム副専攻語学[2 年生以上]	4.1	4.2	4.5	4.3	4.0	4.0

②学習態度に関する評価等

学習態度に関するアンケート項目では、以下に示すように、どの科目群においても学部全体と概ね大差ない結果となった（表 2 参照）。授業形態や内容とも関連していると思われるが、日本語学科生ははじめに授業に出席し、真剣な態度で受講していると考えられる。英語や APUT 等の授業でのシラバス活用率が学部平均より低い、それらの授業においては、必ずしも授業開始前に公開されているオンラインシラバスを参照する必要性もない可能性も考えられる。

表 2 日本語学科生の学習態度に関する評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	B①授業に真面目 に出席した	B②真剣な態度 で受講した	B③シラバスを 活用した	B④予習・復習など を積極的に行った
学部全体平均	4.3	4.3	3.5	-
専門ゼミナール	4.1	4.4	3.7	4.0
コース科目	4.3	4.3	3.7	3.9
専攻語学 プログラム	4.3	4.3	3.6	3.8
APUT	4.3	4.6	3.3	4.3
PUT 以外の 学部共通英語基幹 プログラム[1 年生]	4.0	4.2	3.1	4.1
複言語プログラム 副専攻語学 [2 年生以上]	4.3	4.2	3.4	4.0

3. 今後の授業改善に向けて

以上のアンケート結果から、日本語学科生は全体的に、授業にまじめに出席し、真剣な態度で受講する者の割合が高く、受講する授業の担当教員も熱意があり、積極的に学生を授業に参加させ、興味の湧く授業展開をしている割合が高いことが分かる。本学科の多くの授業では、ペアワーク、グループワーク等の活動も多く、学科で培った実践日本語力を活用するために、多くの授業でプレゼンテーションの機会も多く与えていることから、学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていると感じた学生の割合が高かったのであろう。

しかし、その反面、1 年生対象の日本語や日本文化などの講義科目などでは、すべての学生のレベルに合った授業展開をすることのむずかしさが、このアンケート結果に出ていると感じられる。そのような質問項目の結果等は本アンケート結果だけでは把握できないため、該当する科目を担当する教員が独自のアンケートや質問を学生にし、授業改善につとめるなど、引き続き、常勤、非常勤の教員に呼びかけていく必要があると考えられる。特に「PUT 以外の学部共通英語基幹プログラム」においては、学期の間に何度かアンケートを行い、その結果を踏まえて微調整を加えながら、それぞれの学生にあった授業展開をしていく必要があるのかもしれない。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	英語教育学科	担当者	高橋直子
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

まず、アンケートに対する学科の回収率が92%であったことから、授業改善のために学生の意見を把握することに対して、ある程度望ましい体制が取られていると判断できる。また、アンケートの各設問に対しての学科平均は、「この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した」という設問以外は、平均値がすべて4.5以上であった結果から、教員も学生もほぼ望ましい姿勢で授業に臨み、かつ授業への満足度が高いということが読み取れる。特に平均値が高かったのは、教員の授業の取り組みに対しての設問である。学生から教員の授業への取り組み姿勢に対して高い評価を得られていることは大変喜ばしいことである。

2. 項目ごとの分析結果

学科全体を見ても、授業科目系列別に見ても、評価の平均が高い項目も平均が低い項目も平均値はほぼ同じである。評価の高い項目は「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」と「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」という項目である。教員の授業への取り組み姿勢に対して学生がしっかりと評価していると結論付けられる。また、「この授業は全体として満足であった。」あるいは「この授業の大変興味を持てた」という設問において、授業に関する基本的評価が把握できるが、この両設問においても4.5以上の平均を獲得でき、学生の授業への満足度が高いということが分かる。

また、注目すべきは PUT に対する評価である。この授業は名古屋外大が特に外国語習得に対して力を入れてきた授業であるが、授業科目系列別の中でも特に高い評価を得ている。項目で挙げると、「この授業は全体として満足であった。」「この授業には休まず出席していた。」「この授業には真剣な態度で受講した。」「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。」「この授業には大変興味を持てた。」「この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組み合わせ）を伸ばすことができた。」という7項目で4.9の平均値を獲得している。これは、外大が進めてきた少人数制による授業への高い評価が得られたと言える。PUT をモデルに、これからもより良いカリキュラムが継続されることを望んでいる。

一方で評価の平均値が低かったのは、「この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した」という設問である。授業の初めだけでなく、学期全体を通したシラバスの活用を学生に促す必要がある。

3. 今後の授業改善に向けて

上記で述べたシラバスの活用のほか、記述式の教員アンケートでの意見をいくつか以下に挙げる。

●結果の評価

- ・スライドの見せ方について工夫の余地があると思った。
- ・学生が感じていることを知れてよかった。
- ・評価がすべて4.6以上で、概ね良好である。

●解決すべき課題

- ・大人数授業において、一人ひとりの学生にどのように発表の機会を与えるか。
- ・授業のレベルについて、少し高い/高すぎるが 18 名中 7 名に対し、少し低い/低すぎるが 3 名だった。課題等について丁寧な説明が必要。

●実施している方法・工夫等

- ・学生の研究と発表及び他の学生からの質問に対する補助
- ・リーディングの課題を基に学生のグループディスカッション（英語で 20 分）を毎週実施した。

●ファカルティディベロップメントについて

- ・有意義な、英語による FD 委員会を受ける機会があると良い。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	松山洋平
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

いずれの系列の科目も、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を選択した学生が多く、授業に対する全体的な満足度が高いことがうかがえる。

複数の系列間、あるいは、学科と全体平均とのあいだに有意な数値の差は認められず、それぞれの系列でバランスよく満足度の高い授業が提供されていることがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

① 専攻言語（英語）に関連する科目と比較したとき、「12 〔外〕コース科目／学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕／〔応用〕世界教養学科専門科目、〔共〕コース科目／グローバルメディア科目」において、Bの1から5の質問の評価が低めである。

非英語系の科目に対して、学科生の興味・関心が低いことがわかる。

② 専攻言語（英語）に関連する科目において、「D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった」との質問に「そうは思わない」また「あまりそう思わない」と答えた受講生の内訳を見ると、「高い」と感じている人と「低い」と感じている人がおり、個人差があるように見受けられる。

3. 今後の授業改善に向けて

「2. 項目ごとの分析結果」の①について

本学科は「世界教養学科」であり、かならずしも英語能力の向上だけを志す学科ではない。

学科生が、さまざまな分野の教養を広く身につけることを志すような仕組みを、学科内に作っていく必要があるかもしれない。

現時点で具体的な方策は検討されていないが、入学前オリエンテーションや、4月のオリエンテーションを利用することはできる。

「2. 項目ごとの分析結果」の②について

学科生の間に英語能力の差があることが、学科内で問題視されている。特に、同じクラスの受講生間に能力差がある場合、授業運営が困難となり、学科生の満足度にも影響する。

現在、学部レベルで学部英語教育委員会を新たに設置し、英語科目のレベル別の運営や、授業外での対応の可能性などを議論している最中である。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	大濱、高柳
------	-------------	-----	-------

1. 調査結果の概要

- シラバスの活用、予習復習の質問を除き、すべての質問で4点以上であり、授業に対する満足度はかなり高いと思われる。

2. 項目ごとの分析結果

(1) 学習への取り組みについて (B-1~5)

- 真剣な態度と答えている学生が大半を占めているが、これは1年生対象のアンケート科目が多かったためではないか、と思われる。
- 予習復習に関しては、すべての科目で4点を下回っており、予習復習の習慣が身についていないことが伺える。

(2) 授業の対応について (C-1 から C-6)

- ほとんどの項目で、4点を上回っており、教員の授業への対応も適切であったと推察できる。

(3) 授業への興味について (D-1 から D-2)

- レベルについても8割の学生が適切であると答えているため、問題はないと思われる。

3. 今後の授業改善に向けて

- 学生の予習復習について、その重要性をわかってもらうよう、教員からの働きかけが重要と思われる。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	現代英語学科	担当者	吉見かおる
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

現代英語学科におけるアンケートの集計結果を集約すると、ほぼすべての項目において全体平均を上回る数値を表しており、そのことから学生の授業に対する満足度は全体として高い傾向にあると評価できる。その一方で、現代英語学科生の科目別における学習意欲に差があることが分かった。それは、実践としての英語習得に対して非常に高い意欲が読み取れるが、英語を専門とする上で必修となる専門基礎科目（「ことばと音声 I, II」、「ことばとしくみ I, II」「ことばと文化 I, II」）の学習になると、その数値は若干劣る傾向にあるという点である。

2. 項目ごとの分析結果

最も評価の高かった授業科目名は PUT であった（受講者数 99 名に対し回答数 89 名：回収率 90%）。以下はその結果である。

- ▶この授業は全体として満足であった。（現英 4.9、全体 4.3）
- ▶この授業には、休まず出席していた。（現英 4.7、全体 4.3）
- ▶この授業には、真剣な態度で受講した（現英 4.9、全体 4.3）
- ▶この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。（現英 4.5、全体 3.8）
- ▶この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。聞く・話す・読む・書く（現英 4.8、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.8、全体 4.2）
- ▶この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聞く能力のいずれか、あるいはその組み合わせ）を伸ばすことができた。（現英 4.8、全体 4.3）

以下は、専門基礎科目の結果である（受講者数 369 名に対し回答数 343 名：回収率 93%）。

- ▶この授業は、全体として満足であった。（現英 4.3、全体 4.3）
- ▶この授業には、休まず出席していた。（現英 4.4、全体 4.3）
- ▶この授業には、真剣な態度で受講した（現英 4.5、全体 4.3）
- ▶この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。（現英 4.0、全体 3.8）
- ▶この授業で指定された教科書、参考書等十分に活用した。（現英 4.3、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.2、全体 4.2）

専門基礎科目は、いずれも現代英語学科学生に必須科目で一年次から順次開講されている科目群であり、合計 12 科目を習得しなければならない。現代英語学科生にとって英語は一つの学問の柱となるため、実践英語に加え、やはり専門知識の基礎となるこの科目群の重要性を一年生から訴えていく必要がある。

全体平均よりも低い数値項目を出したその他科目群は、「Lecture in English, Business in English, Academic Subject in English」であった（受講者数 204 名に対し回答数 181 名：回収率 89%）。

- ▶この授業は全体として満足であった。（現英 4.1、全体 4.3）
- ▶この授業には、休まず出席していた。（現英 4.3、全体 4.3）
- ▶この授業には、真剣な態度で受講した（現英 4.3、全体 4.3）
- ▶この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。（現英 3.6、全体 3.8）
- ▶この授業で指定された教科書、参考書等十分に活用した。（現英 3.8、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.1、全体 4.2）

下線で記した上記 4 項目が平均値よりも低いその理由を学科として確認し、改善に繋がるよう見ていく必要がある。

全体平均より大幅に高い数値を示した科目群は、「学科提供プログラム、世界教養プログラム[基礎]/[応用]世界教養学科専門科目」であった（受講者数 15 名に対し回答数 14 名：回収率 93%）。

- ▶この授業は全体として満足であった。（現英 4.9、全体 4.3）
- ▶この授業には、休まず出席していた。（現英 4.4、全体 4.3）
- ▶この授業には、真剣な態度で受講した（現英 4.8、全体 4.3）
- ▶この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。（現英 4.3、全体 3.8）
- ▶この授業で指定された教科書、参考書等十分に活用した。（現英 4.8、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.9、全体 4.2）

特に、学生たちの授業担当者に対する評価は非常に高かった。

- ▶教員はわかり易く説明していた。（現英 5.0、全体 4.4）
- ▶教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。（現英 5.0、全体 4.5）
- ▶学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。（現英 4.9、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.9、全体 4.2）

「学科提供プログラム、世界教養プログラム[基礎]/[応用]世界教養学科専門科目」に関して、全体の回答学生数が少ないアンケート結果であったとしても、ほぼ全員の学生が最高値で評価したということは、この科目群に対して学生たちは非常に満足していると読み取ることができる。

3. 今後の授業改善に向けて

現代英語学科の学生は一般的に、他の学部学科の学生よりも英語学習に対する意欲が高い傾向にある。しかしアンケート結果にもあるように、英語を学問的に習得することになると消極的な姿勢を示す傾向が見られる。この現状を教員がしっかりと受け止め、一年次から実践と専門基礎教育のバランスの取れた学習の重要性を学生たちに伝えていく必要がある。

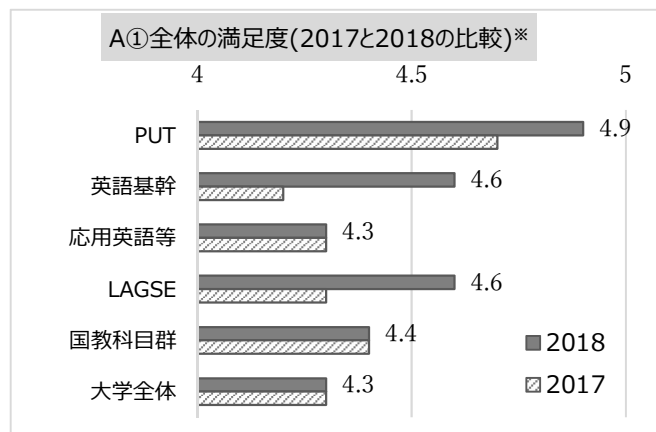
2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	国際教養学科	担当者	山本 恵
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

今回のアンケート回収率は、どの系列も 90%前後あり、調査結果から全体の傾向を捉えて問題ないとする。但し国際教養科目群のみ 81%と低い。

右図 A①は授業全体の満足度について、2017 年度と比較したものである。2018 年度はすべての系列で昨年度を上回っている。また大学全体よりも高く、全体としてみれば良好な結果である。

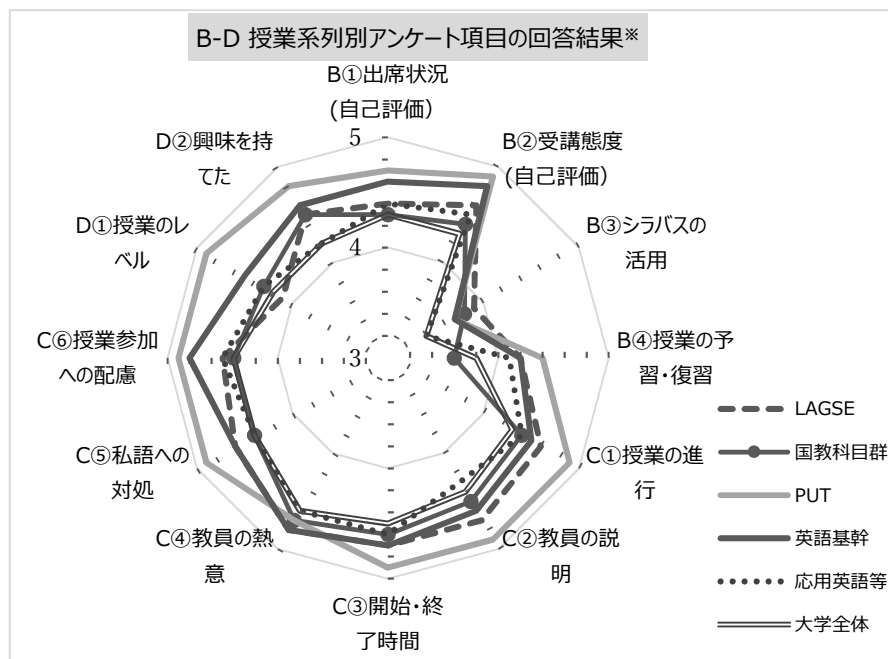


2. 項目ごとの分析結果

右図 B-D は、B①から D②までの各項目の回答結果を、授業系列別に示したものである。

ほとんどの項目で、大学全体の平均を上回っており、1. の全体の満足度が総合的な評価の集約した結果であると言える。

科目系列別にみると、例年同様 PUT の評価が最も高い。次いで英語基幹科目である。特筆すべき点は、「D①授業のレベル」や「C①授業の進行」で、PUT と他の系列の差が見られることである。これらは教員が改善可能な項目であるため、周知して改善を促す必要がある。LAGSE については 1. の総合評価からもわかるとおり、改善されてきているが、「D①授業のレベル」で高すぎると感じる学生が多いようである。学生の能力格差の影響も考えられるため、精査した上で改善の方策を練る必要がある。



例年「B③のシラバスの活用」が低い。これは大学全体の問題と捉えるべきである。履修選択時の役割以外に活用を勧めるのであれば、大学全体で改善について考える必要がある。

3. 今後の授業改善に向けて

全体的に、昨年度よりも授業改善の努力の成果がみられる。しかし個々の項目をみると、過去のデータや科目系列間の比較から、改善すべき点が見られる。ただし、単一項目の平均だけでは要因まで確認することはできない。今後は RAW データからのクロス集計など、詳細な分析が必要である。

以上

※ 図中のアンケート質問項目および科目系列名は、内容を端的に示すことばに置き換えてある

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界共生学科	担当者	宮川公平、近藤野里
------	--------	-----	-----------

1. 調査結果の概要

世界共生学科全体の質問回答集計表から、どの質問項目についても、大半の学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。全学の平均と比較した場合にも、平均値の違いは特にないといえる。例外としては、B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」という項目については、「普通」と回答した人の割合が高いことから、シラバスの活用の仕方が学生および教員間で共有されていないということが言えるのではないだろうか。

2. 項目ごとの分析結果

① ICT プログラム

全学の平均と比較すると、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、C-①「授業の進み具合は適切であった」、C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-⑤「授業中の私語に適切な処置がとられていた」、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」、D-①「授業のレベルは、自分にとって適切であった」、D-②「この授業に大変興味を持てた」などの項目について、世界共生学科の平均値は少し低いといえる。この結果から、本学科の学生に対して、ICT 活用能力の重要性を理解し、その能力を授業中に養っていくという意識付けを何らかの方法で行う必要があるといえる。

② 英語基幹プログラム

どの質問項目についてもほとんどの学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」については「とてもそう思う」を選択した学生が多いことから、教員に対する学生の評価が非常に高いといえる。

③ PUT

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑤「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価が非常に高いといえる。

④ 専攻言語プログラム

B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」という項目では、全学平均と比較しても高い数値である。教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生

の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価は高い。

⑤ アカデミックスキルズプログラム

D-①「授業のレベルは、自分にとって適切であった」という項目については、「普通」もしくは「あまりそう思わない」を選択した学生が一定数いたことから、授業内容が少々難しかったことがうかがえる。その反面、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」といった項目から、学生がこの授業を重要だと考え、授業の予習・復習に取り組んだと解釈することができる。他方で、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」については「とてもそう思う」を選択した学生が多いことから、教員に対する学生の評価が比較的高いこともうかがえる。

3. 今後の授業改善に向けて

アンケート結果から、「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されている」という項目が高ければ、授業へ取り組む態度や、予習・復習の積極性も高くなる可能性を指摘できる。特にアクティブラーニング型の授業を行うことで、「授業に参加する＝自発的に学ぶ」という学修の方法によって、積極的に授業を受ける・課題に取り組むという学習態度が鍛錬される可能性が高い。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	CLED	担当者	池内正幸
------	------	-----	------

対象：外国語学部、現代国際学部、世界共生学部 CE、LC、TTI

1. 調査結果の概要

2、3の項目を除いて、全体平均を超えているか、あるいは、同値である。評価としては、申し分ないと言って良いであろう。但し、CE, LC, TTI の区別、また、方法、テキスト等が異なる学部の区別がなされていないので詳細が不明であるという点は昨年度と同様である。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回っているのは、C-②、D-①-1（と B-3）のみである。昨年度（2017 年度実施/18 年度評価、以下同様）は、A-①は平均以下であったが、今年度は全体平均と同値である。また、一昨年度（2016 年度実施 2 学部/17 年度評価、以下同様）では、A-①、D-②などが 3 点台であったことを勘案すると、年次ごとに改善されていると判断される。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LC については、来年度（2020 年度）からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター（もしくはその後継 institution）としかるべく検討を進めたい。

対象：外国語学部共通 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

6 項目でのみ、全体平均を上回るか同値である。いくつかの主要項目で全体平均を下回る結果となっている。

2. 項目ごとの分析結果

特に、主要項目である A-①、D-②、D-③、D-④などで全体平均を下回る評価であった。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

2019/20 年度から新カリキュラムが始まっており、その結果・成果を合わせて考慮し、必要あれば対応を考えたい。

対象：英米語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

1つの項目を除いて、全体平均を上回るか同値である。高く評価される。昨年度も主要項目において全体平均とほぼ同値であった。

2. 項目ごとの分析結果

B-③のみ、全体平均を 0.1 下回っている。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LC については、来年度(2020 年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター(もしくはその後継 institution)としかるべく検討を進めたい。

対象：英米語学科 PUT

1. 調査結果の概要

1つの項目を除いて、その他全ての項目で全体平均を上回るかなり高い評価を得ている。十分に評価されるべきである。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回っているのは、B-③だけであり、特に問題とはならないと思われる。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

来年度に向けてテキストが改定される予定であるので、それをも考慮しつつ必要あれば検討したい。

対象：フランス語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

全ての項目で全体平均を上回り、いくつかの主要項目では極めて高い評価を得ている。

2. 項目ごとの分析結果

昨年と同様、A-①、D-②など多くの主要項目では評価が極めて高いのは特筆されるべきであろう。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LCについては、来年度(2020年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター(もしくはその後継 institution)としかるべく検討を進めたい。

対象：フランス語学科 PUT

1. 調査結果の概要

2つの項目を除き、主要項目を含めて全体平均を上回る高い評価である。了と判断される。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回ったのは、B-①、B-③のみである。欠席がやや多いようである。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

来年度に向けてテキストが改定される予定であるので、それをも考慮しつつ必要あれば検討したい。

対象：フランス語学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

1 つの項目以外、全ての項目で全体平均を上回るか同値である。昨年度は、全ての項目で全体平均を下回っていたので、著しい改善である。

2. 項目ごとの分析結果

B-①のみ全体平均以下であったが、特に問題ではないと思われる。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

2019/20 年度から新カリキュラムが始まっており、その結果・成果を合わせて考慮し、必要あれば対応を考えたい。

対象：中国語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

いくつかの項目で全体平均を下回っている。

2. 項目ごとの分析結果

A-①は、昨年は全体平均を下回っていたが、今年度は同値に上がっている。評価されるべきである。その他、B-③、C-②、D-①-1、D-②が全体平均を下回る結果となっている。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LC については、来年度(2020 年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター(もしくはその後継 institution)としかるべく検討を進めたい。

対象：中国語学科 PUT

1. 調査結果の概要

CE・LC・TTI と異なり、主要項目を含めて、全体的に全体平均を上回る高い評価となっている。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回ったのは、B-③、D-①-1 のみである。

(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

来年度に向けてテキストが改定される予定であるので、それをも考慮しつつ必要あれば検討したい。

対象：中国語学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

昨年度も多くの項目で全体平均を下回っていたが、今年度はさらに悪化している。全体平均を上回るのは1項目のみであり、それ以外の項目全てで全体平均を下回るという結果である。

2. 項目ごとの分析結果

B-④のみ全体平均を上回る評価であった。一方、D-②、D-④は3点台である。

(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

2019/20 年度から新カリキュラムが始まっており、その結果・成果を合わせて考慮し、必要あれば対応を考えたい。学科としての対応・対策も必要であるかもしれない。

対象：日本語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

B-④以外、全ての項目で全体平均を下回っている。昨年より悪化していると思われる。

2. 項目ごとの分析結果

B-④のみ全体平均を上回っている。A-①が 3 点台であるなど、それ以外は全て（項目によっては、0.5 ポイント以上）下回る。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

何らかの改善が必要かと思われる。ただ、現状では、どの科目が問題なのか判別できない。なお、LC については、来年度(2020 年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター（もしくはその後継 institution）としかるべく検討を進めたい。

対象：日本語学科 PUT

1. 調査結果の概要

CE・LC・TTI とは異なり、3 つの項目を除いて、その他主要項目を含む項目で全体平均を上回る高い評価を得ている。

2. 項目ごとの分析結果

B-③、C-③、C-⑤の 3 項目のみ全体平均を下回っている。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

来年度に向けてテキストが改定される予定であるので、それをも考慮しつつ必要あれば検討したい。

対象：日本語学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

全体平均以上か同値の評価を得たのはのは、5 項目のみであった。昨年度は、主要項目を含め、全体平均とほぼ同等の数値が出ていたので、今年度はやや悪化したということになるかもしれない。

2. 項目ごとの分析結果

D-④は3点台であった。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

2019/20 年度から新カリキュラムが始まっており、その結果・成果を合わせて考慮し、必要あれば対応を考えたい。学科としての対応・対策も必要であるかもしれない。

対象：フランス語、中国語学科 LC

1. 調査結果の概要

主要項目を含む9つの項目で全体平均を下回る評価である。

2. 項目ごとの分析結果

昨年と同様、A-①、D-②の評価が低いようである。ただ、昨年度とは対象学科の数・構成が異なる。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

来年度(2020年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター（もしくはその後継 institution）としかるべく検討を進めたい。

対象：英語教育学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

全ての項目で全体平均を上回り、また、ほぼ全ての主要項目で全体平均を大幅に上回る高い評価を得ている。特筆されるべき評価である。

2. 項目ごとの分析結果

A-①、D-②は昨年度は4.9であったが、今年度はやや下がっている。とはいえ、高い値である。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LCについては、来年度(2020年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらのfactorsをも考慮して、ITALL センター(もしくはその後継 institution)としかるべく検討を進めたい。

対象：英語教育学科 PUT

1. 調査結果の概要

全ての項目で全体平均を上回っている。また、主要項目を含む多くの項目で極めて高い評価であり、特筆されるべきである。申し分なしというところであろう。

2. 項目ごとの分析結果

A-①、D-②、D-③など何と7つの項目で4.9という高評価であった。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

来年度に向けてテキストが改定される予定であるので、それをも考慮しつつ必要あれば検討したい。

対象：世界教養学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

主要項目を含む 8 つの項目で全体平均以下の数値である。昨年度と同傾向である。

2. 項目ごとの分析結果

A-①、D-②などの主要項目で全体平均を下回っている。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

何らかの手立てが必要であるかもしれない。ただ、現状では、どの科目が問題なのか判別できない。なお、LC については、来年度(2020 年度)からテキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、ITALL センター（もしくはその後継 institution）としかるべく検討を進めたい。

対象：世界教養学科 PUT

1. 調査結果の概要

CE・LC・TTI とは異なり、1 つの項目を除いて、全体平均を上回るポイントである。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回ったのは、B-③のみで特に問題はないと思われる。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

来年度に向けてテキストが改定される予定であるので、それをも考慮しつつ必要あれば検討したい。

2018年度名古屋外国語大学授業改善のためのアンケート調査の結果（大学院）

FD 委員 林良児

本学における教育・研究活動の改善・向上のために FD 委員会内規が定められたのは 2001 年 2 月のことである。この内規は 2004 年、2007 年、2008 年、2016 年、2017 年に改正されて今日にいたる。委員会は学長をはじめとする十一の組織の長等によって構成され、大学院からは研究科長及び大学院運営委員 1 名の計 2 名が委員として加わっている。委員会は五つの事項を審議する役割を担っているが、その一つが、FD の要ともいえるべき「授業・研究指導の内容・方法の改善のための研修・研究に関すること」である。その具体策が、授業改善のためのアンケート調査であり、大学院では 2007 年度から実施されてきた。調査の対象は、正規生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生を含めて 4 名以上の履修者がいる科目とし、集中講義科目と、英語教授法(TESOL)コースの英語教員ワークショップと重なる科目は対象外である。回答項目は、これまでと同様、マーク式回答項目と教員独自の設問による記述式回答項目に分かれる。マーク式回答項目では、5（とてもそう思う）、4（ややそう思う）、3（普通）、2（あまりそう思わない）、1（そうは思わない）の 5 段階評価を求めている。

2018 年度 2 期に調査対象となったのは、「国際コミュニケーション総合研究」3 科目、「日本語コミュニケーション」1 科目、「日本文化研究」1 科目、「日本語学研究」1 科目、「日本語教育法研究」2 科目の 8 科目である。受講者は 46 名で、回答数は 45、回収率は 98%だった。

アンケート調査（マーク回答事項）の質問事項と全体の平均値は下記のとおりである。

- ① 授業に対する満足度（この授業は、全体として満足であった）4.9
- ② 学生の自己評価
 - ・ 授業への出席（この授業には、まじめに出席していた）4.1
 - ・ 授業への受講態度（この授業には、真剣な態度で受講した）4.6
 - ・ シラバスの活用（この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した） ...3.6
 - ・ 予習・復習（この授業に関して予習、復習などを積極的に行った）3.7
 - ・ 教科書・参考書の活用（教科書、参考書等を十分に活用した。）4.4
- ③ 授業に対する評価
 - ・ 進み具合（授業の進み具合は適切であった）4.8
 - ・ 説明（教員の説明は分かり易かった）4.9
 - ・ 時間厳守（授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた）4.9
 - ・ 熱意（授業には熱意が感じられた）5.0
 - ・ 私語の処置（授業中の私語には適切な処置がとられていた）4.8
 - ・ 学生の参加（学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた）4.9
 - ・ レベル（授業のレベルは、自分にとって適切であった）4.6
 - ・ 興味（この授業に大変興味を持てた）4.7

上記のとおり、大学院科目の平均値は二つの項目（授業への出席・予習と復習）以外は全体の平均を上回り、かなり高い結果となった。とくに、教員の「説明」と「熱意」の 4.9 と 5.0 の評価は、授業計画が全体としてはおおむね適切ではあることを示唆している。しかし、前年度に比べると 5.0 を得たのは 3 項目から 1 項目に減少するなど、全体的に下がっているのが気になる。また、「予習・復習」の評価が 3.7 にもかかわらず「授業レベル」の評価が 4.6 であるのをみると、教員と受講者の双方にとって、よりよい授業のための改善の余地がまだ残されているように思われる。なお、教員サイドから、アンケート項目を検討する必要があるのではないかという意見が寄せられたことを付記する。

2018年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート	担当者	櫻井省吾
------	------------------	-----	------

1. 調査結果の概要

本調査結果報告は国際日本語教育インスティテュートが行っている日本語の授業に関するものだけを取り扱う（*ジャパNSTディーズ科目は含まないとする）。

全17項目中、15項目は全体の平均値、またはそれを上回る結果となり、留学生の満足度が高く評価される結果となった。この点に関しては、2名の専任講師と16名の非常勤講師が各クラスで連携をとり、質の高いプログラムが提供できるように努力した結果が大きい。全体の平均値を下回った2項目に関しては、対象学生が留学生ということで、いたしかたない部分はあるが、(3)の「今後の授業改善に向けて」で改善案を考察する。

2. 項目ごとの分析結果

ここでは、特筆すべき項目だけを取りあげる。

B-2 この授業には真剣な態度で受講した。

B-4 この授業に関して予習・復習などを積極的に行った。

B-6 この授業により、次の取り組みの1つ以上について積極的に行うようになった（聞く、話す、読む、書く）

上記の3項目は全体平均より0.3-0.5高い結果が得られた。大半の留学生は日本語の勉強を主目的に来日するため、モチベーションが高く、真面目な学生が多いためである（B-2項目）。また、ほぼすべてのクラスで宿題や課題が毎回課せられるので、予習・復習をして授業に参加することが基本となっており、毎日の学習習慣を身につけることができたようである（B-3項目）。インスティテュートの授業を受けたことにより、自発的な自律学習へと結びつけられた学生が多く出たということは非常に意義があると思われる（B-6項目）。

C-3 授業の開始時間・終了時間はきちんと守られていた

C-4 教員は授業に熱意をもって取り組んでいた

C-5 授業中の私語には適切な処置がとられていた

C-6 学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた

上記の4項目に関しては全体平均より0.2-0.4高い結果が得られた。これは各教員が真剣に授業に取り

組んだ結果である。特に、国際日本語教育インスティテュートでは世界各国から文化・言語の違った学生を1つのクラスに集めて教えるため、一人一人の学生の細やかなケアや工夫された授業が必要となってくる。そのため、C-6項目で4.6の高結果が得られたことは特筆すべき点である。

3. 今後の授業改善に向けて

唯一、全体平均を下回った項目は以下の2項目であった（0.1下回る）。

B-1 この授業には休まず出席していた。

C-1 授業の進み具合は適切であった。

まず、B-1項目に関してはいたしかたない部分がある。留学生は限られた期間のみ日本に滞在するため、その間に日本各地・またアジアの近隣諸国へ旅行に行くことがある。留学生が日本に滞在している間に、自国の家族や友人が訪れることもあり、彼らを連れて観光へ行くこともある。学生の欠席を少しでも防ぐため、2019年度1期より、①滞在中に出国する場合は「出国願」を事務室に提出する、②欠席・遅刻・宿題や課題の遅延提出等の細かいルールを施行した。これらが少しでも抑止力となるかは、2019年度のアンケート結果と比べて検討する。

次に、C-1項目に関しては、「早い」と答えた学生が「遅い」と答えた学生よりも数人多かった。授業時間数とカリキュラムが決まっているため、全体の調整は難しいが、各クラスで微調整をして改善することはできる。学生にとって難しいと思われる課には時間を割き、比較的易しい課は時間を短縮することによって、早く感じる学生と遅く感じる学生の両者に満足してもらえるのではないかと思う。

より一層学生の満足度を上げるため、今後は以上のことに取り組んでいきたいと思う。

授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業		

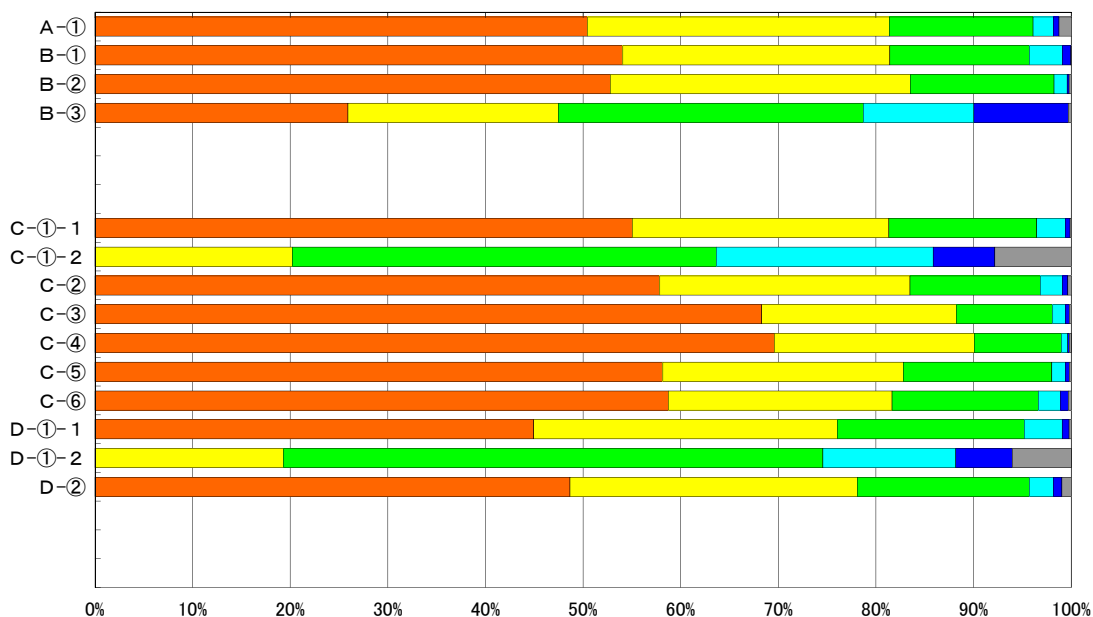
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	7,800	---	---
17生	7,632	---	---
16生	3,723	---	---
15生以前	2,029	---	---
その他	332	---	---
不明	5,350	---	---
合計	26,866	30,759	87 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまりそ う思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	13562	8297	3955	561	153	338	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	14523	7351	3847	898	235	12	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	14179	8255	3957	360	54	61	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	6961	5794	8389	3043	2596	83	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	14784	7060	4068	797	122	35	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 186	3 少し早い 399	2 少し遅い 204	1 遅すぎる 58	未答 72		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	15543	6886	3591	605	147	94	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	18349	5360	2646	344	113	54	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	18695	5502	2402	169	53	45	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	15624	6620	4086	374	106	56	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	15778	6158	4034	605	209	82	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	12071	8367	5140	1040	186	62	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 237	3 少し高い 677	2 少し低い 167	1 低すぎる 71	未答 74		
D-② この授業に大変興味を持てた。	13071	7909	4741	654	231	260	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■ とてもそう思う(5)
 ■ ややそう思う(4)
 ■ 普通(3)
 ■ あまりそう思わない(2)
 ■ そうは思わない(1)
 ■ 未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業(学部)		

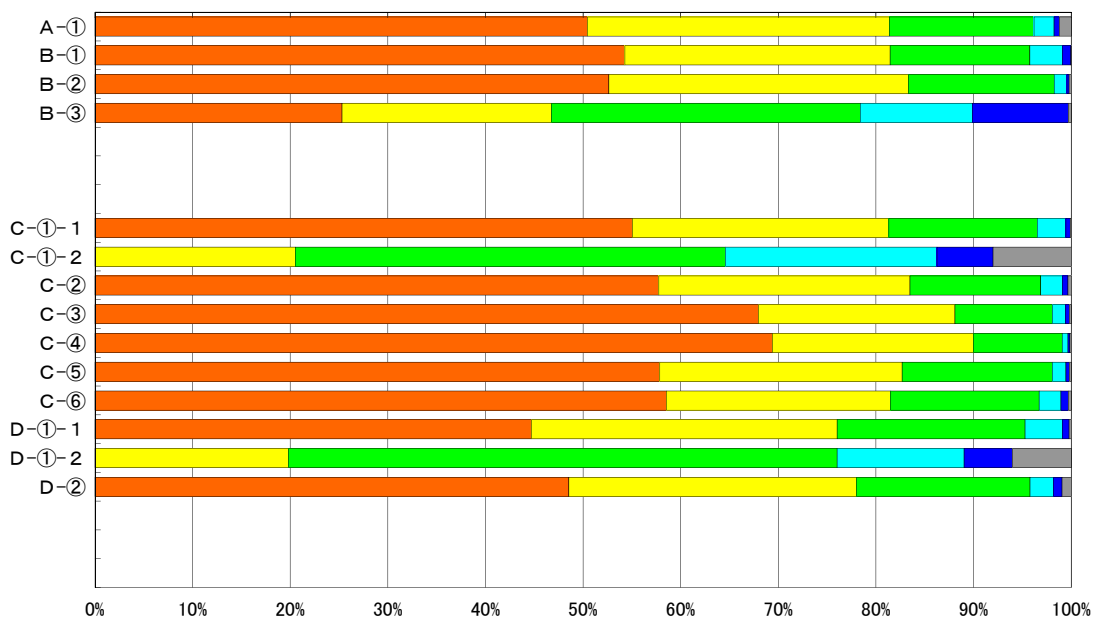
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	7,759	---	---
17生	7,614	---	---
16生	3,715	---	---
15生以前	2,016	---	---
その他	90	---	---
不明	5,112	---	---
合計	26,306	30,133	87 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまりそ う思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	13273	8133	3895	540	153	312	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	14279	7148	3763	882	223	11	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	13846	8080	3920	346	54	60	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	6656	5652	8313	3023	2584	78	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	14482	6909	3998	770	117	30	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		182	391	192	51	71		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	15194	6764	3527	591	143	87	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	17874	5299	2631	342	113	47	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	18251	5426	2384	156	51	38	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	15219	6528	4051	364	101	43	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	15396	6046	3999	586	204	75	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	11765	8231	5066	1006	178	60	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		235	665	154	59	71		
D-② この授業に大変興味を持てた。	12768	7757	4671	639	223	248	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■ とてもそう思う(5)
 ■ ややそう思う(4)
 ■ 普通(3)
 ■ あまりそう思わない(2)
 ■ そうは思わない(1)
 ■ 未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業(大学院)		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	8	---	---
17生	0	---	---
16生	0	---	---
15生以前	3	---	---
その他	24	---	---
不明	10	---	---
合計	45	46	98 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまりそ う思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	40	5	0	0	0	0	4.9	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	23	7	12	0	2	1	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	30	14	0	1	0	0	4.6	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	14	8	15	4	3	1	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	37	5	3	0	0	0	4.8	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	41	4	0	0	0	0	4.9	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	43	1	0	1	0	0	4.9	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	45	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	37	8	0	0	0	0	4.8	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	39	6	0	0	0	0	4.9	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	31	9	4	1	0	0	4.6	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	35	8	2	0	0	0	4.7	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業(日本語教育センター(留学生別科))		

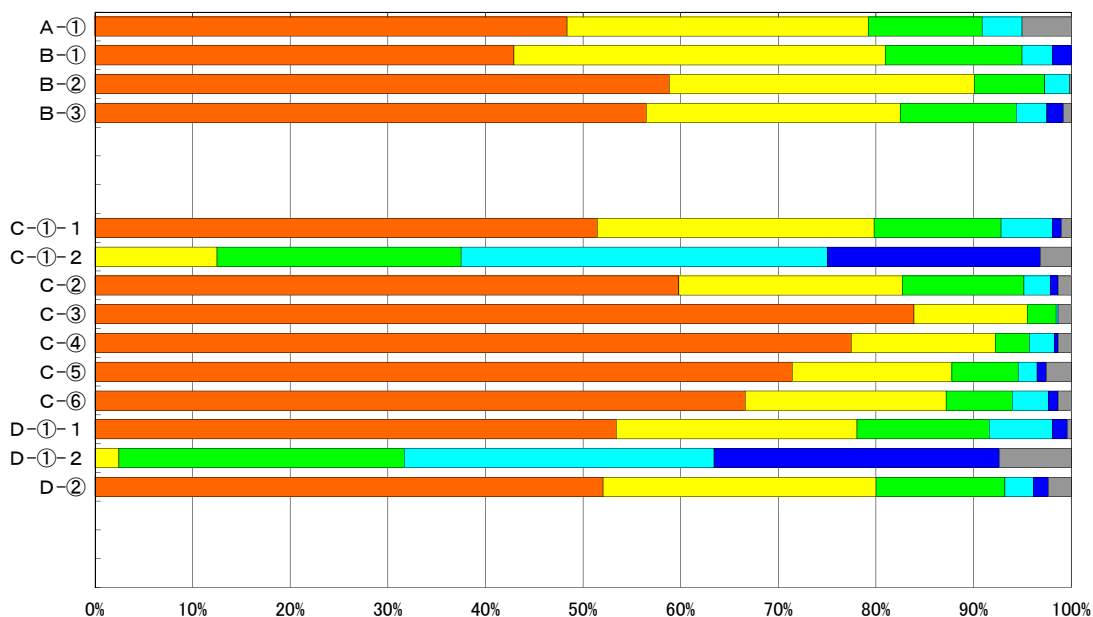
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	33	---	---
17生	18	---	---
16生	8	---	---
15生以前	10	---	---
その他	218	---	---
不明	228	---	---
合計	515	580	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまりそ う思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	249	159	60	21	0	26	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	221	196	72	16	10	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	303	161	37	13	0	1	4.5	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	291	134	61	16	9	4	4.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	265	146	67	27	5	5	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		4	8	12	7	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	308	118	64	14	4	7	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	432	60	15	1	0	7	4.8	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	399	76	18	13	2	7	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	368	84	35	10	5	13	4.6	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	343	106	35	19	5	7	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	275	127	70	33	8	2	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	12	13	12	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	268	144	68	15	8	12	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■ とてもそう思う(5)
 ■ ややそう思う(4)
 ■ 普通(3)
 ■ あまりそう思わない(2)
 ■ そうは思わない(1)
 ■ 未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 01 英米語学科		

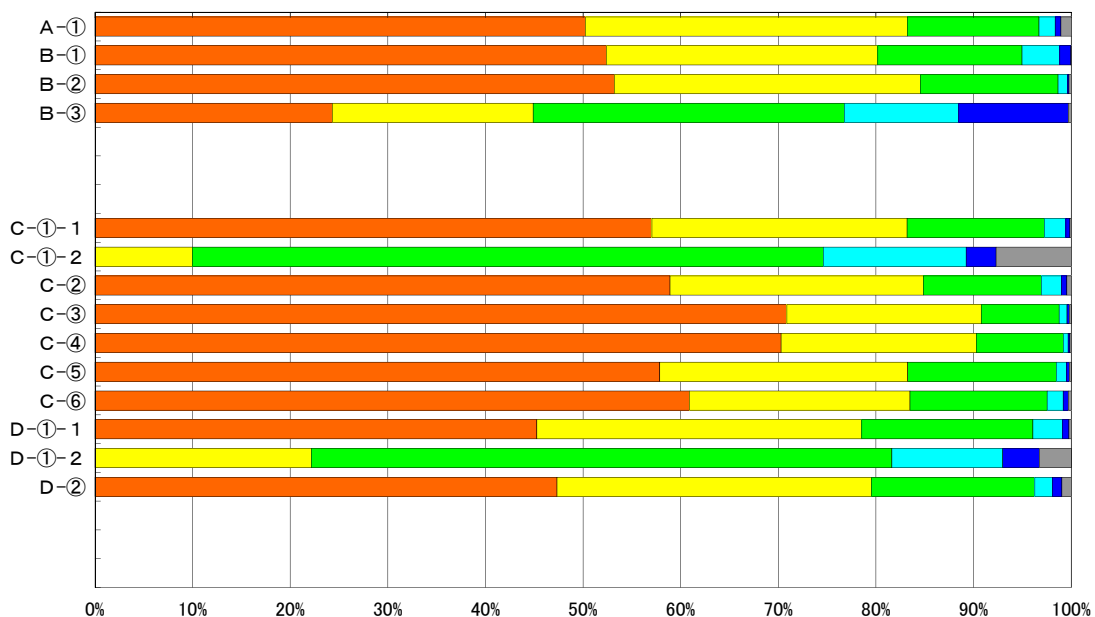
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	1,627	---	---
17生	1,212	---	---
16生	795	---	---
15生以前	448	---	---
その他	8	---	---
不明	930	---	---
合計	5,020	5,879	85 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	2,523	1,654	677	83	30	53	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	2,630	1,395	742	194	57	2	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	2,671	1,574	707	49	7	12	4.4	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	1,221	1,032	1,601	588	563	15	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	2,864	1,312	707	109	21	7	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		13	84	19	4	10		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	2,957	1,302	609	101	28	23	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	3,558	999	401	40	13	9	4.6	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	3,528	1,003	450	23	9	7	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	2,904	1,275	765	51	17	8	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	3,057	1,134	705	82	27	15	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	2,272	1,671	880	152	33	12	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		41	110	21	7	6		
D-② この授業に大変興味を持てた。	2,376	1,618	839	89	50	48	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 02 フランス語学科		

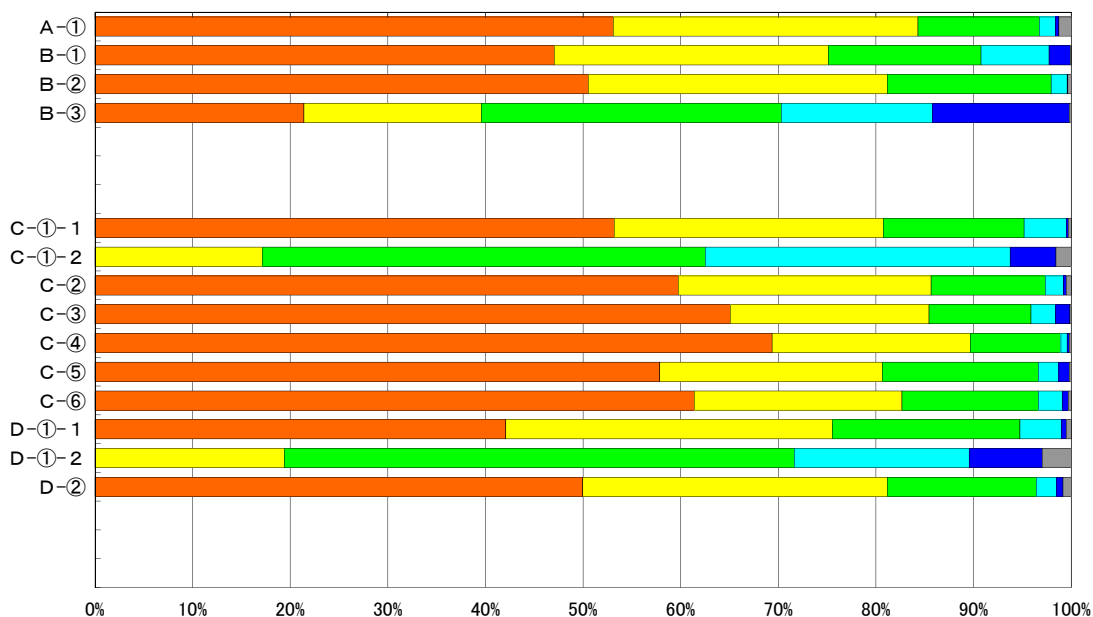
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	269	---	---
17生	470	---	---
16生	222	---	---
15生以前	168	---	---
その他	2	---	---
不明	276	---	---
合計	1,407	1,669	84 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそう 思う	3 普通	2 あまりそ う思わな い	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	747	439	175	23	5	18	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	662	395	220	98	31	1	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	711	431	236	23	1	5	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	301	256	432	218	197	3	3.2	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	749	387	203	61	3	4	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		11	29	20	3	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	841	364	165	26	4	7	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	916	286	147	35	21	2	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	976	286	130	9	3	3	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	814	321	225	29	15	3	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	864	299	197	34	9	4	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	592	471	270	60	7	7	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		13	35	12	5	2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	703	439	215	29	9	12	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 03 中国語学科		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	178	---	---
17生	403	---	---
16生	59	---	---
15生以前	40	---	---
その他	1	---	---
不明	196	---	---
合計	877	971	90 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまりそ う思わな い	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	417	281	136	16	12	15	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	476	222	135	40	4	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	473	262	128	8	2	4	4.4	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	186	191	280	103	113	4	3.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	427	256	167	23	4	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		4	7	9	4	3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	465	258	122	20	9	3	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	512	194	134	23	12	2	4.3	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	538	219	100	14	5	1	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	453	257	156	7	3	1	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	480	242	137	9	8	1	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	339	317	193	23	2	3	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	15	3	4	2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	377	287	175	22	8	8	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 04 日本語学科		

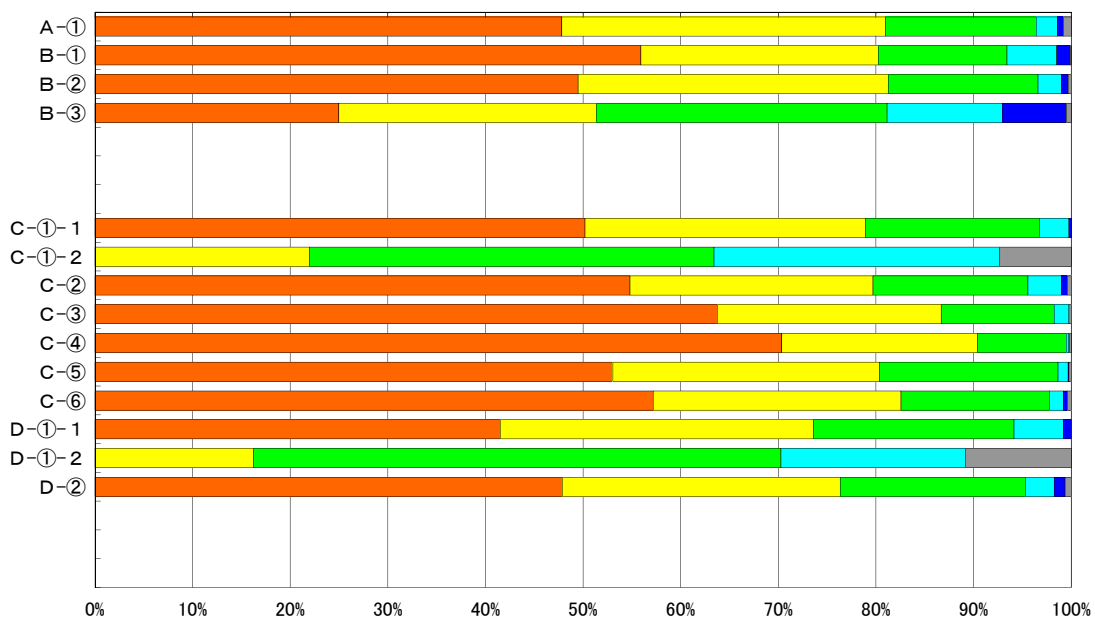
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	281	---	---
17生	251	---	---
16生	255	---	---
15生以前	114	---	---
その他	39	---	---
不明	321	---	---
合計	1,261	1,403	90 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わな い	1 そうは 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	603	418	195	27	8	10	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	705	307	166	64	18	1	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	624	401	193	30	9	4	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	315	333	375	149	83	6	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	633	362	225	38	3	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		9	17	12	0	3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	691	314	200	43	8	5	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	804	289	146	19	0	3	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	887	253	115	3	1	2	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	669	344	231	13	1	3	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	721	320	192	18	5	5	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	524	404	259	64	10	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		12	40	14	0	8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	604	359	239	37	14	8	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 05 英語教育学科		

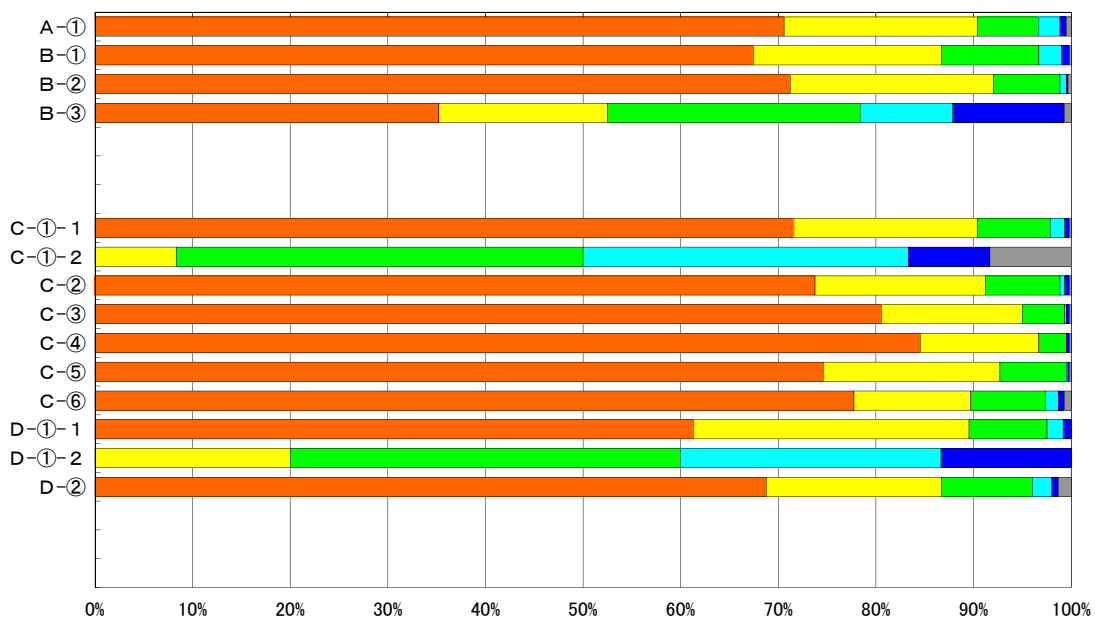
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	194	---	---
17生	223	---	---
16生	42	---	---
15生以前	8	---	---
その他	1	---	---
不明	134	---	---
合計	602	651	92 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	425	119	38	13	4	3	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	406	116	60	14	5	1	4.5	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	429	125	41	4	1	2	4.6	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	212	104	156	57	69	4	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	431	113	45	9	3	1	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		1	5	4	1	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	444	105	46	3	3	1	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	485	87	26	1	2	1	4.8	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	509	73	17	0	2	1	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	449	109	41	1	1	1	4.7	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	468	72	46	8	4	4	4.7	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	369	170	48	10	5	0	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		3	6	4	2	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	414	108	56	12	4	8	4.5	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 06 世界教養学科		

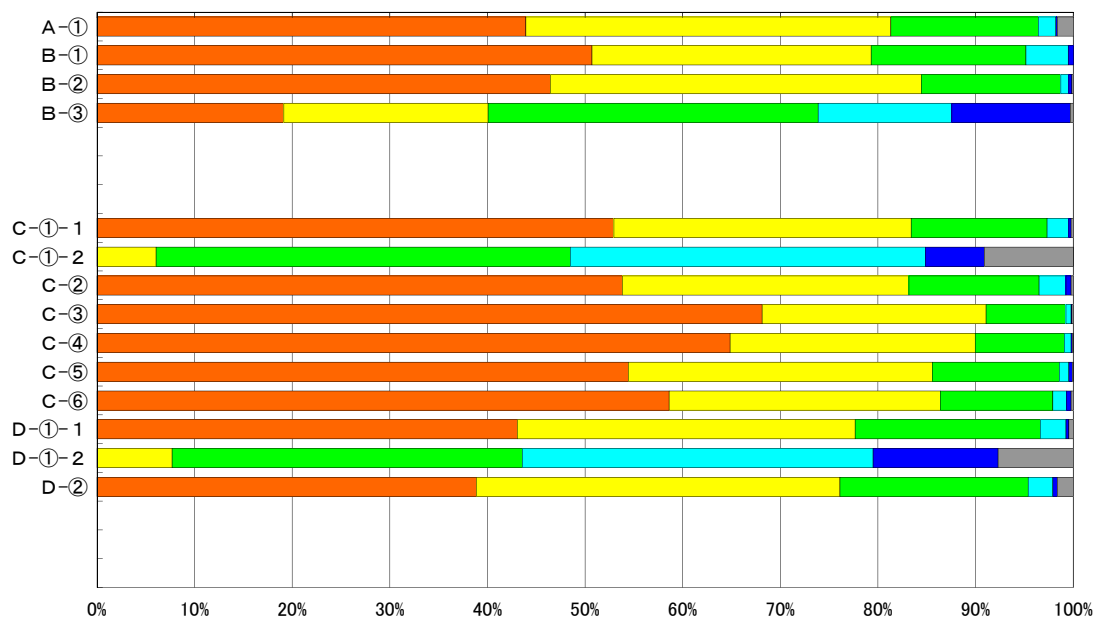
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	533	---	---
17生	242	---	---
16生	181	---	---
15生以前	102	---	---
その他	0	---	---
不明	285	---	---
合計	1,343	1,525	88 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	590	502	203	24	2	22	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	681	384	213	58	7	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	624	510	192	11	4	2	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	257	281	454	184	163	4	3.2	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	711	409	187	30	3	3	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		2	14	12	2	3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	723	394	179	37	7	3	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	915	308	110	7	1	2	4.6	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	871	337	123	9	2	1	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	731	418	175	13	5	1	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	787	373	155	19	6	3	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	578	465	255	35	4	6	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		3	14	14	5	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	522	500	259	34	6	22	4.1	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 07 外国語学部共通		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	221	---	---
17生	128	---	---
16生	59	---	---
15生以前	13	---	---
その他	2	---	---
不明	87	---	---
合計	510	547	93 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな い	1 そう 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	207	171	101	14	4	13	4.1	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	311	116	71	10	2	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	270	142	92	6	0	0	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	97	107	163	84	55	4	3.2	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	223	157	94	29	5	2	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		8	14	6	3	3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	247	158	90	12	2	1	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	323	115	60	7	4	1	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	314	126	63	5	1	1	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	261	146	89	9	3	2	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	264	139	91	9	6	1	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	175	171	117	42	4	1	3.9	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		6	30	4	1	5		
D-② この授業に大変興味を持てた。	222	145	124	11	4	4	4.1	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 09 グローバルビジネス学科		

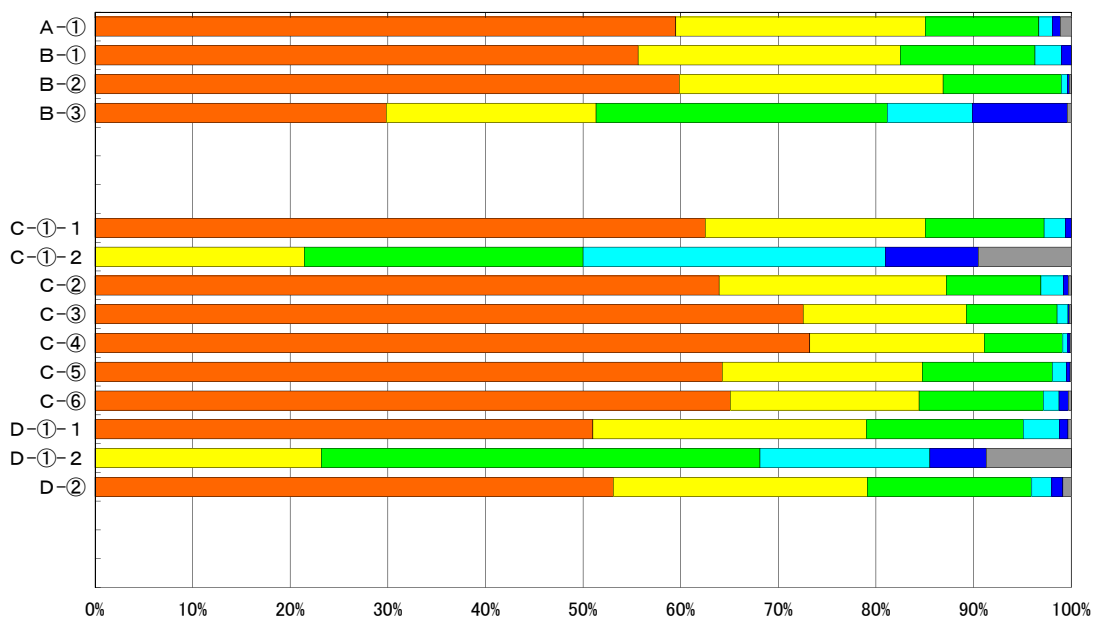
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	563	---	---
17生	412	---	---
16生	141	---	---
15生以前	57	---	---
その他	3	---	---
不明	332	---	---
合計	1,508	1,760	86 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	897	386	175	21	12	17	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	839	405	208	41	15	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	903	407	183	9	3	3	4.5	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	450	324	450	131	147	6	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	943	340	183	33	9	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		9	12	13	4	4		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	964	351	146	35	8	4	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,094	252	140	17	2	3	4.6	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,104	270	121	8	3	2	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	969	309	201	22	5	2	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	982	291	192	24	15	4	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	769	423	242	56	13	5	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		16	31	12	4	6		
D-② この授業に大変興味を持てた。	801	392	254	31	17	13	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 08 現代英語学科		

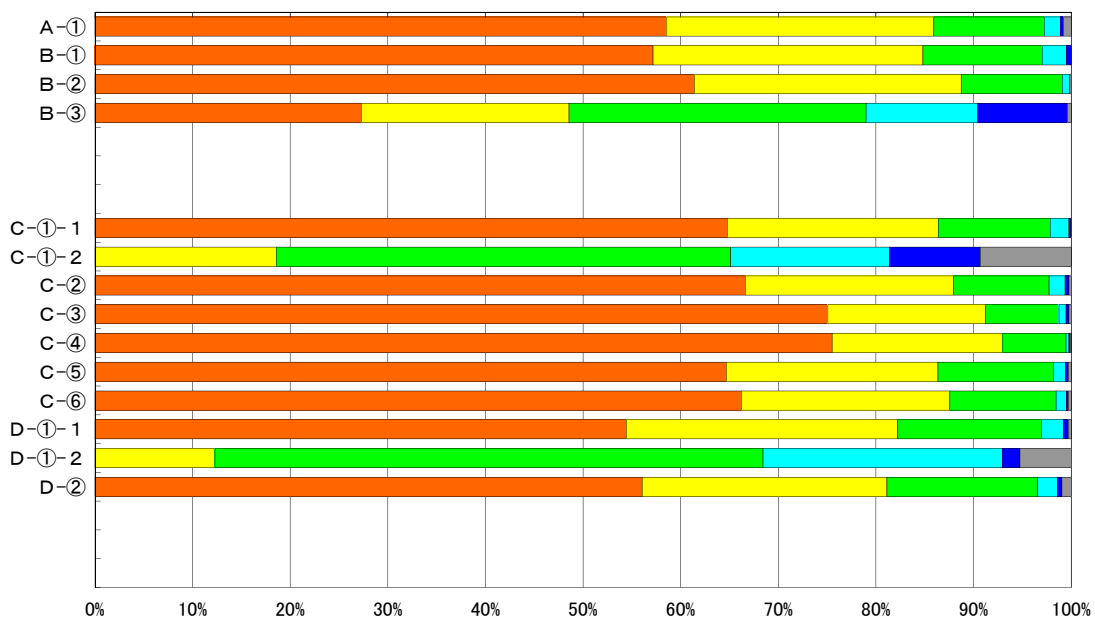
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	584	---	---
17生	545	---	---
16生	339	---	---
15生以前	259	---	---
その他	0	---	---
不明	339	---	---
合計	2,066	2,283	90 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,210	565	234	34	7	16	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,181	571	253	51	10	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,269	564	214	16	0	3	4.5	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	564	439	629	236	190	8	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,338	447	237	39	4	1	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		8	20	7	4	4		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,376	441	202	34	8	5	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,551	333	156	15	6	5	4.7	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,560	361	134	6	3	2	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,336	448	244	26	6	6	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,368	441	225	22	4	6	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	1,125	574	304	47	10	6	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		7	32	14	1	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	1,158	518	319	42	9	20	4.4	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 10 国際教養学科		

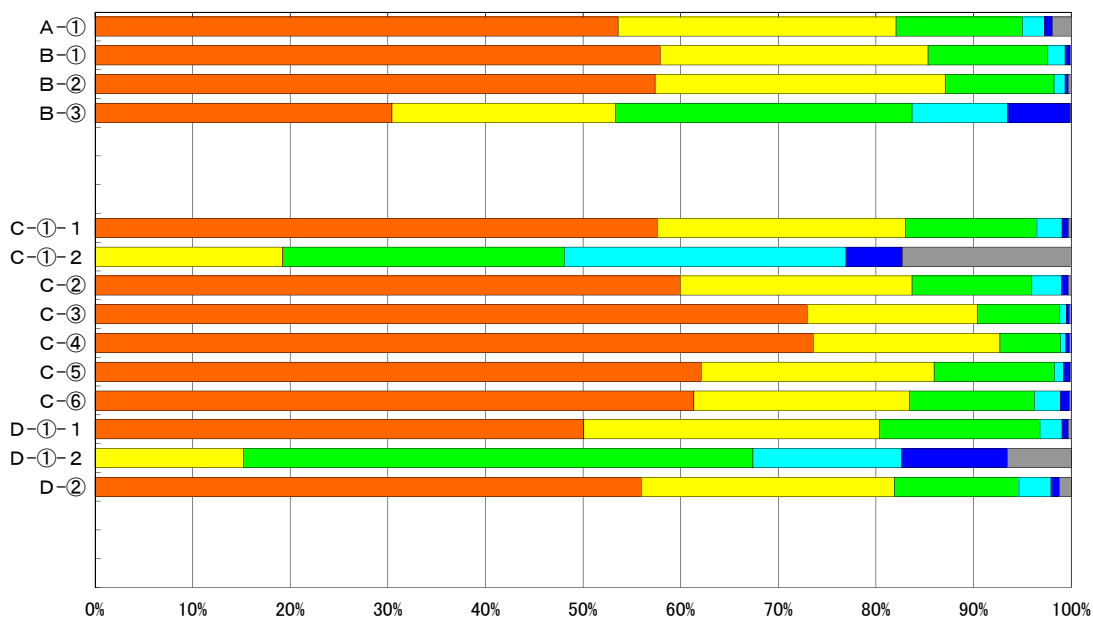
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	559	---	---
17生	422	---	---
16生	213	---	---
15生以前	101	---	---
その他	4	---	---
不明	289	---	---
合計	1,588	1,848	86 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそう 思う	3 普通	2 あまりそ う思わな い	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	851	452	206	35	13	31	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	920	435	194	29	8	2	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	911	472	177	18	5	5	4.4	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	483	364	482	155	103	1	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	915	403	214	41	11	4	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		10	15	15	3	9		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	952	377	194	49	11	5	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,159	276	134	11	5	3	4.6	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,169	303	98	9	6	3	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	987	378	196	15	10	2	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	974	351	203	42	15	3	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	795	481	261	36	10	5	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		7	24	7	5	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	889	411	203	52	14	19	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 11 現代国際学部共通		

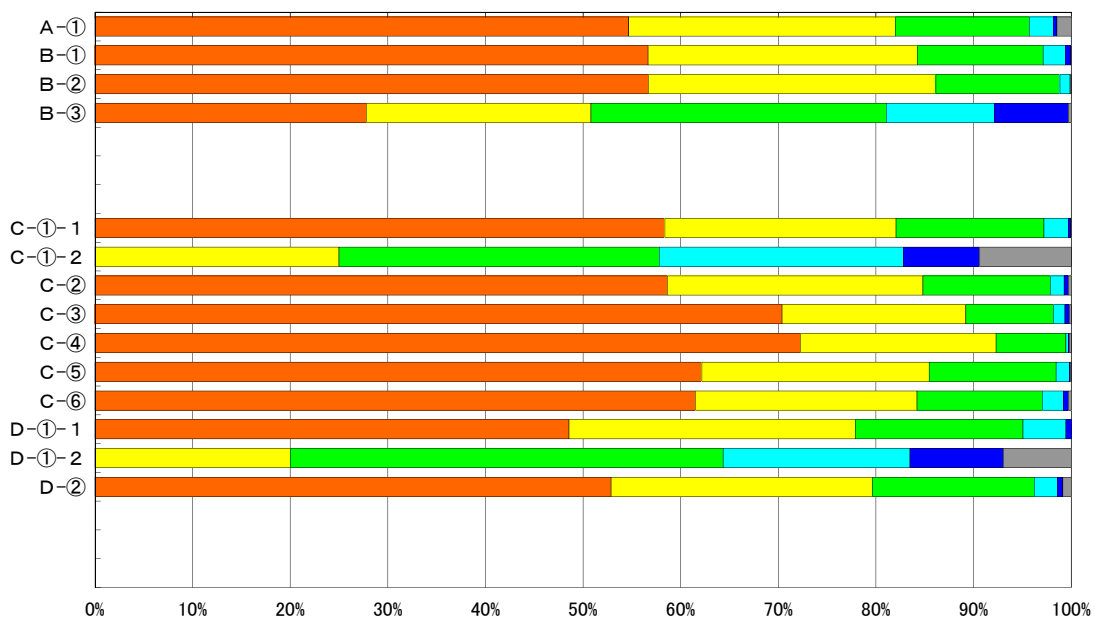
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	900	---	---
17生	639	---	---
16生	222	---	---
15生以前	106	---	---
その他	12	---	---
不明	444	---	---
合計	2,323	2,608	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とてもそ う思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまりそ う思わ ない	1 そうは 思わ ない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,270	635	318	57	9	34	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,316	641	299	53	13	1	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,317	684	295	24	1	2	4.4	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	646	534	703	258	175	7	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,356	550	352	58	6	1	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 16	3 少し早い 21	2 少し遅い 16	1 遅すぎる 5	未答 6		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,362	608	304	32	10	7	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,635	437	209	27	11	4	4.6	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,679	465	166	6	3	4	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,444	541	302	31	3	2	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,429	527	299	49	12	7	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	1,128	681	399	102	13	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 23	3 少し高い 51	2 少し低い 22	1 低すぎる 11	未答 8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	1,228	622	385	55	13	20	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 12 世界共生学科		

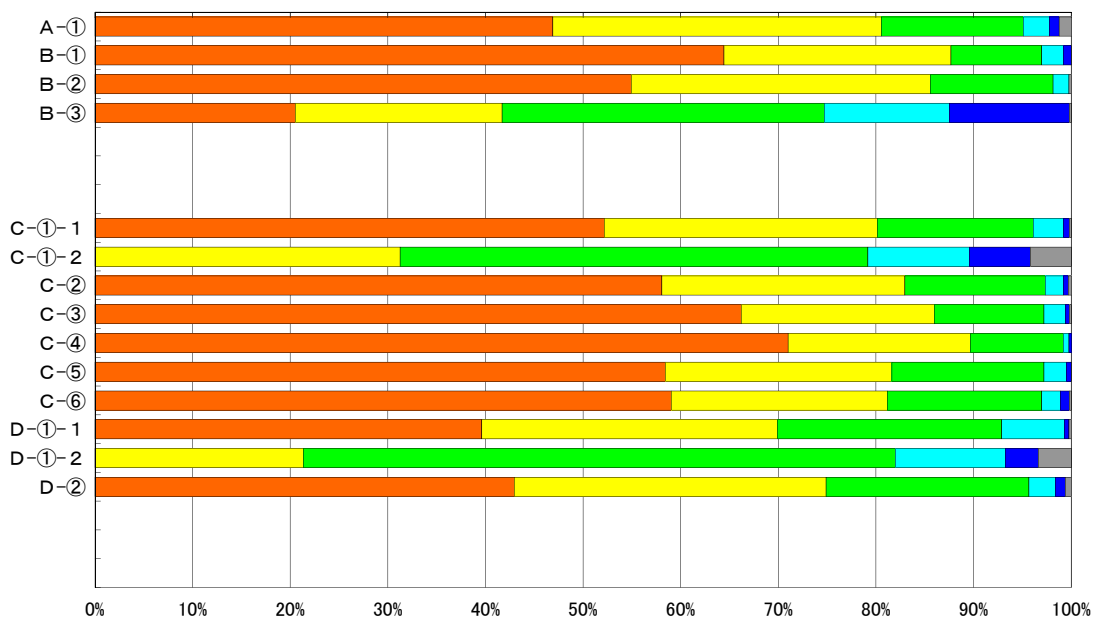
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	668	---	---
17生	324	---	---
16生	0	---	---
15生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	298	---	---
合計	1,290	1,488	87 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまり そう思 わない	1 そうは 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	605	434	188	34	13	16	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	831	300	120	29	10	0	4.5	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	709	395	162	21	0	3	4.4	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	265	273	426	165	159	2	3.2	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	673	361	206	40	8	2	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		15	23	5	3	2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	749	321	186	24	6	4	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	854	255	145	28	6	2	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	916	241	123	7	3	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	754	299	201	30	6	0	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	762	285	204	25	12	2	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	511	391	296	83	6	3	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		19	54	10	3	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	554	412	268	35	13	8	4.1	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 13 学部間合同		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	1,117	---	---
17生	2,197	---	---
16生	957	---	---
15生以前	468	---	---
その他	5	---	---
不明	1,045	---	---
合計	5,789	6,717	86 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	2,624	1,829	1,101	146	28	61	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	2,927	1,663	965	191	40	3	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	2,592	1,881	1,164	120	19	13	4.2	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	1,462	1,247	1,902	641	525	12	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	2,864	1,595	1,054	238	33	5	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		75	127	39	10	20		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	3,046	1,567	963	157	38	18	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	3,621	1,292	741	97	28	10	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	3,730	1,319	664	56	9	11	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	3,075	1,487	1,082	110	23	12	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	2,872	1,375	1,225	227	72	18	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	2,246	1,772	1,411	293	59	8	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		83	221	17	9	22		
D-② この授業に大変興味を持てた。	2,587	1,715	1,196	180	59	52	4.1	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 14 教職科目		

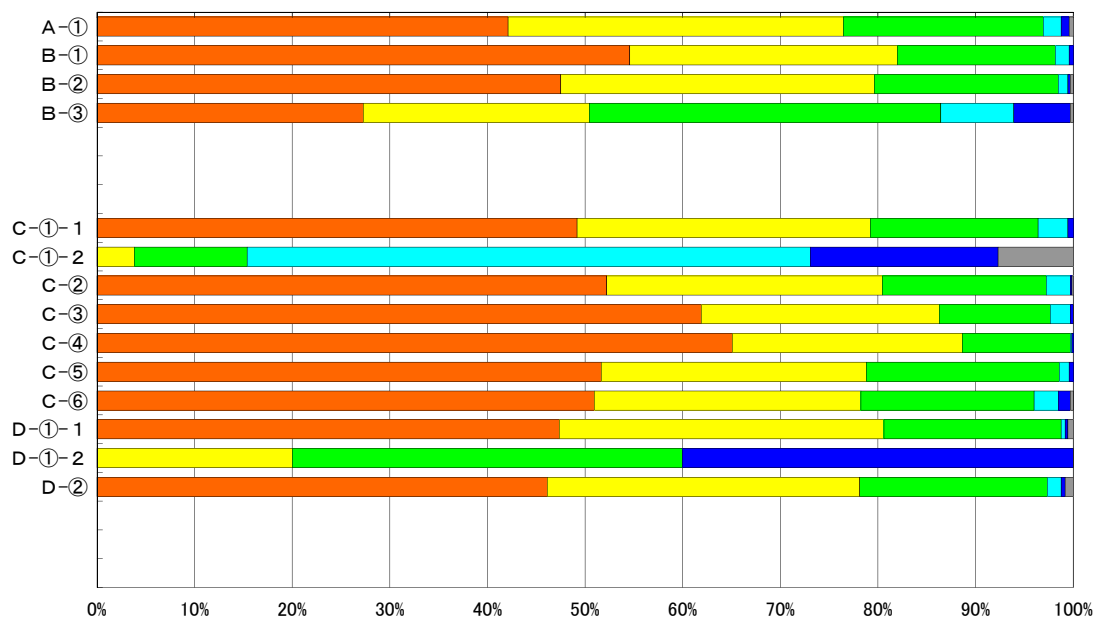
入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	65	---	---
17生	146	---	---
16生	230	---	---
15生以前	132	---	---
その他	13	---	---
不明	136	---	---
合計	722	784	92 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思 う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ ない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	304	248	148	13	6	3	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	394	198	117	10	3	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	343	232	136	7	2	2	4.3	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	197	167	260	54	42	2	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	355	217	124	22	4	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		1	3	15	5	2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	377	204	121	18	1	1	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	447	176	82	15	2	0	4.5	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	470	170	80	1	1	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	373	196	143	7	3	0	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	368	197	128	18	9	2	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	342	240	131	3	2	4	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	2	0	2	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	333	231	139	10	3	6	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(大学院) 15 大学院		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	8	---	---
17生	0	---	---
16生	0	---	---
15生以前	3	---	---
その他	24	---	---
不明	10	---	---
合計	45	46	98 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまり そう思 わない	1 そうは 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	40	5	0	0	0	0	4.9	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	23	7	12	0	2	1	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	30	14	0	1	0	0	4.6	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	14	8	15	4	3	1	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	37	5	3	0	0	0	4.8	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	41	4	0	0	0	0	4.9	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	43	1	0	1	0	0	4.9	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	45	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	37	8	0	0	0	0	4.8	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	39	6	0	0	0	0	4.9	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	31	9	4	1	0	0	4.6	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	35	8	2	0	0	0	4.7	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(別科) 16 別科		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
18生	33	---	---
17生	18	---	---
16生	8	---	---
15生以前	10	---	---
その他	218	---	---
不明	228	---	---
合計	515	580	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまり そう思 わない	1 そうは 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	249	159	60	21	0	26	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	221	196	72	16	10	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	303	161	37	13	0	1	4.5	4.3
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	291	134	61	16	9	4	4.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	265	146	67	27	5	5	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		4	8	12	7	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	308	118	64	14	4	7	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	432	60	15	1	0	7	4.8	4.5
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	399	76	18	13	2	7	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	368	84	35	10	5	13	4.6	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	343	106	35	19	5	7	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	275	127	70	33	8	2	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	12	13	12	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	268	144	68	15	8	12	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答

